

特別展「比田井南谷～線の芸術～」 ご来館者の感想

○10月4日～10月10日分

大変勉強になりました。64年ごろの作品をもう少し見たいと思いました。

美しいではなく「比田井」と言われなければならないという言葉と、それを実践した作品の系譜に感動しました。

写真みたいでした。

文字を書かない書というものが成り立つのか？今まで考えもしなかった問題です。これから書を見るとき考えてみます。

Good！！

オリジナリティーがあっておもしろい字がたくさんある。書道が楽しく書けそうな気がする。

心線の発想がオリジナルティがあってすばらしかった。

墨の色と線質

素晴らしい作品を近くで観る事ができて満足です。今後の作品展期待しております。

鳥の子紙と墨だけでこのように変化のあるものになるか不思議。落款の位置も考えつかない場所にあるものも多く、おもしろかったです。

No. 9は迷路で人が歩いているように、No. 34 鳩は、ジョアン・ミロの絵のように、No. 5は、あみだくじのように見えておもしろかったです。

白と黒の世界に筆によって心の内面を表す空間は美しく感じます。線の強さや繊細さは、その人自身の持つ内面を表しているのでしょうか。私も心を養いたいです。

何をイメージして書いたのかわかれば良いがさっぱりわからない。

比田井天来と南谷に興味があり、実作品を見られる機会だったので良かったです。60年代～の鳥の子紙に下地塗りした作品は、墨の質感など井上有一にも似ているかなと思いました。不思議な墨がどんな墨か知りたかったです。

書道は高尚なイメージがありましたが、日常に溶け込んでいて、身近に感じることができました。感情が表れる様は絵のように見てとれるようで、人間味が絵と違う「書」ならではののかなと思うことができました。

素晴らしかったです。感動しました。

落款印の位置まで天才的だった。作品 NO. 80-1 は天才としか思えない芸術作品。誰にも創れない。大きな感動をありがとうございます。

どの作品も芸術的で面白い作品でした。

「電のヴァリエーション」の風変わりさは理解できるのですが、”良さ”は理解できません。

近代詩を書道展に出品し、自由なようで決して単に好きなように書き上げればよいという訳でもないので、少し息詰まっていたのですが、こちらを拝見し、目の前が明るくなりました。キャンバスに油絵具を使用するといった大胆な作品は今後の私の作品作りに参考にもなり、考え方が肯定されたように思えました。

文字を書かない作品、題名が番号のみである作品が多く、見た人やその人が置かれている状況によって様々な解釈ができる作品だなと思いました。また、それを促すことを考えて書かれていたのかなと興味深かった。多くの作品に押し込められた印が作者の名前の感じではないように感じ、どのような意味があるものなのかを知ることができたら良かったなと思った。

線表現の広さを感じた。渡米して芸術家と多く交流を持って、独自の世界観を求め続けたことがよく伝わってきた。

書のイメージが変わり、とても良かった。全国からこれだけの種類の作品が春日井に集められているのは素晴らしい。

絵画のような作品は想像しておらず感動しました。

空間・余白の取り方について考えさせられました。

今の毎日書道展の作品群と比べて、余白が広く空間を美しく感じさせて、書というものが線の芸術であることを明確にしようと表現しているのが痛快である。

線の色とか形がおもしろかった。書から画へ広がる表現力でも書の域を越えているし、興味深かった。今後もこのような興味深い書画の展示をお願いします。

線の動きが細かく精密に伝わって来ます。偶然ではなく、考えられた世界でもあると思います。

心楽しく作品に触れることができました。絵を見ている感覚です。

No. 24, 作品67 第一画目の何と立体的なこと！！新たな表現に感動しました。一部入れかえた展覧会を楽しく見せて頂きました。

自分の存在を刻みつけるような力強い豊かな線。素材を追求し、ひたすら精進された作品に胸をうたれました。